



議長 植田博巳
牧之原市議会
うえたひろみ

次世代につながる
持続可能なまちづくりへの
議論を進める



市長 杉本基久
おもとすぎもと
すきもと

若者をターゲットにした取り
組みと市民の皆さまが住み続
けたいと思えるまちづくりを

明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、希望に満ちた輝かしい新春を晴れやかに迎えたいと、心からお慶び申し上げます。昨年10月の牧之原市長選挙におきまして、牧之原市長2期目を任せられ、改めてその責任の重さを実感している次第であります。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大による対応が求められ、緊急事態宣言の発令による行動制限やワクチン接種のほか、各種給付金、経済対策事業などを実施してまいりました。また、5月1日に発生しました「竜巻等災害」の際には、多くの災害ボランティアの皆さまのご協力や、市民の皆さまをはじめ全国各地から多くの温かい災害義援金のご支援をいただき感謝申し上げます。

新年おめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のまん延により緊急事態宣言が発令されるなど、社会・経済活動や日常生活に大きな影響がもたらされ、働き方や生活様式が大きく変化しました。このような中、マスクの着用、手指消毒などの基本的な感染防止対策の徹底やワクチン接種の効果により感染者数も減少し、徐々に普段の生活を取り戻しつつありましたが、オミクロン株の出現により予断を許さない状況でもあります。

議会活動におきましては、一昨年に引き続き市民の皆さまと対面で行うという形での「議会報告会」は中

当市では若い世代や出生数の減少が進む中、牧之原市の将来を見据え、今後の持続可能なまちづくりのため、若者をターゲットにした取り組みと市民の皆さまが住み続けたいと思えるまちづくりを進めてまいります。

相良牧之原ICや富士山静岡空港の整備効果を市内に引き込み、既成市街地の「榛原」「相良」と「高台」の3つの拠点をつなげてまち全体を発展させる「富士山型ネットワークの構築」を目指し、にぎわいと雇用の場の創出、交流人口の拡大や定住意欲につながるサービスやライフスタイルを生み出していきたいです。また、若者世代から望む声が多い「親子で遊べる施設や公園の整備」や、現在進めている学校再編や保育園の民営化をはじめ、教育や保育の

止といたしましたでしたが、新たな試みとして、録画映像の配信により各委員会の活動などにつきまして報告をさせていただきます。

防災・減災対策として、防潮堤工事の促進や河川氾濫、土砂災害などへの対応について、国、県へ要請活動を行ってまいりました。

また、各委員会で協議してまいりました「将来を見据えた魅力あるまちづくり」「環境保全に向けた取り組み」についての政策提言を市に提出するなど、市民生活に欠かさない諸課題の解決に取り組んでまいりました。

昨年10月24日の市議会議員選挙により、16人の議員が選出され、市民の皆さまの付託に答えるべく、新たな体制での議会活動をスタートさせ

充実を図り、「子育て世代を支える『日本一女性にやさしいまち』」の実現に努めます。女性の雇用充実につましても、企業との連携・支援だけでなく、女性の感性やスキルを活かした活躍を応援し、無理せず稼ぐビジネスモデルの創出やスタートアップの支援を推進いたします。

対話の形態や方法を工夫し、多くの皆さんの意見を市政に反映できるよう努め、ウィズコロナ・アフターコロナの時代においても、住み働き、子どもを生み、育ててもらおうまちづくりを目指してまいります。結びに、本年が明るく希望に満ちた年となりますとともに、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ました。

2030年の開校を目指して協議が進んでいる学校再編計画と、再編に伴うまちづくりや、地震、津波、風水害対策などの安心・安全な日々の生活に関する議論などを継続的に進めていくとともに、少子高齢化の影響による荒廃農地の増加や市内経済の減退など、大きく変化する社会の諸課題の解決に向け、議員一丸となり、次世代につながる持続可能なまちづくりへの議論を進めてまいります。

結びに、新型コロナウイルスの収束を願い、希望に満ち、安心して生活ができる年になりますとともに、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

謹賀新年

2022年 年頭のごあいさつ

初日の出(さがらサンビーチ)